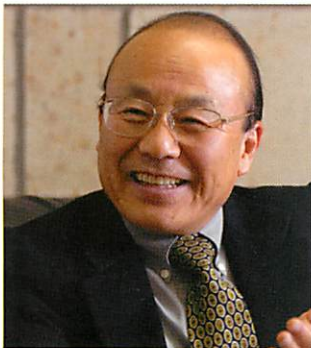


入学生のみなさんへ

副学長（教育担当） 白石昌武



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。受験勉強から開放された今のお気持ちはいかがですか？クラブ活動に参加したい、アルバイトをやりたい、勉学に励みたい等、頭のなかで色々考えを巡らしていることと思います。これまでの高等学校等での生活とは異なり、これからは自分で決め、かつ自分の責任においてすべて行動を起こす必要があります。

毎年入学する学生諸君を見て感じることは、何らかの目標を持ってこれからの4年間、さらにはその先の大学院の生活を送って頂きたい、と言うことです。勉学を通し知識を身に付けることばかりが大学生活ではありません。その目標として、打ち込めるものであれば何でもいいのではないのでしょうか？例えば資格を取る、留学を目指す、ボランティア活動をする、クラブ活動で良い成績を残す等、色々あると思います。目標を持てば人間はそれに向かって努力できるのです。そして結果的に人間的に成長するはずで、よく言われることは、“日本の学生は外国の学生に比べて非常に子供である”と言うこと、つまり、自分で判断できない、決断できない、行動に移せないという点です。このような悪説を覆すのは他の誰でもないみなさん自身です。入学されたみなさんが優秀であることは、我々教職員が認めているところです。要は秘めたる能力をうまく発揮できないのではないかと危惧しています。勇気を持って頑張ってください。

最後にみなさんをお願いしたいことは、人とのコミュニケーションを取ることを常に心がけて頂きたい、と言うことです。大学生活では勿論のこと、卒業後社会に出てからの他人とのコミュニケーションは非常に重要です。そして、茨城大学に入学して良かったと思えるような学生生活を送って下さい。

ローザ・プルムラ 第38号（平成21年4月発行）

目次

入学生のみなさんへ	1
大学教育センターから	2
教養教育係だより	2
e-learning システム “RENANDI” へのアクセス方法	3
特集 「今春卒業した先輩から新入生のみなさんへ」	4
学生の声・奥付	8

大学教育センターから

吉田 宏二（専任教員）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学教育センター教員一同を代表して心よりお祝い申し上げます。

当センターは、教養教育の企画や運営をはじめ、大学の自己点検評価（授業アンケートやFD活動）や皆さんの様々な教育支援を主な業務としている、皆さんと深い関わりを持つ組織です。特に総合英語や理系基礎教育では、習得度別のクラス編成を取り入れたきめ細かな教養教育を実施しており、当センターの教育活動の大きな2本柱であります。

ところで私は先日、休暇を利用して青春18きっぷで各駅停車の旅行をしました。普通列車1日乗り放題という切符です。皆さんの中にも、この春休みに利用した人がいることでしょうか。この旅行の醍醐味は、移りゆく車窓の景色を眺めながら、また時には途中下車をし、素朴ではあるが自分にとっては新しい発見に出会えることです。そして、それは時間にゆとりのない人には決して味わえない貴重なものなのです。

なぜここでこのような話をしたかといえば、大学に入学したと同時に皆さんが手に入れた、これまでにない多くの自由な時間を、これからの教養教育から専門教育へと続く大学教育の中で十二分に活かしてもらいたいからです。

大学の教育は、大別すると前半の教養教育と後半の専門教育に2つに分けられます。皆さんがこれから学ぶ教養教育の期間は、様々な分野の科目を学び、専門にとらわれない幅広い視野を育むための期間であるとともに、各学部各学科の専門教育へとステップアップするための基礎固めの、いわば専門教育への準備期間です。しかしながら向学心に燃え入学された皆さんは、すぐにでも専門科目を学びたいことでしょう。そしてややもすると、この教養教育を回り道だと感じるかもしれません。しかし、何事を行うにも、基礎をおろそかにして大成はありません。教養教育をゆっくりしっかり踏みしめるように学んでいく途中途中には、大学受験のための学習では見えていなかった、他人には些細なことかもしれないが、自分にとって何か新鮮に感じられる知識に出会うこともあるでしょう。また自分の知識が、誤った思い込みや曖昧だったと悟る場面もあるかもしれません。そして何よりこの教養教育を着実に一步一步、自由にあったペースで前に進み、教養や基礎学力を確実なものとするのが肝心です。そしてその暁には、皆さんの進むべき新しい道（専門教育）がはっきりと現れることでしょう。焦らずゆっくり卒業への道を歩んでいくことを祈ります。そう、各駅列車の旅のように。

教養教育係だより

掲示板に要注意!

学生用掲示板は、学生諸君に連絡事項を伝達するための唯一の方法です。掲示板には、大学の行事、休講のお知らせ、教室の変更、学生の呼び出し、試験及び授業に関する事など、学園生活に必要な事項が掲示されます。掲示板を見ないことにより所定の期日までに手続きなどができず、結果として不利な取り扱いを受けることもあります。また掲示板は、屋外掲示板と電子掲示板がありますので、登下校、授業の合間の際に掲示板を確認してください。

毎日1回は必ず見ましょう。

自転車の駐輪について

自転車の駐輪に際しては、歩行者や車輛等の通行に支障をきたしますので、定められた場所に駐輪してください。特に道路上の駐輪については、事故の起こる危険がありますので、迷惑のかからないよう注意してください。学生諸君のご協力をよろしくお願いします。

携帯電話の使用について

講義棟内や公共の場所では、携帯電話の電源を切っておくか、マナーモードに設定しておくようにしてください。

e-learningシステム“RENANDI”へのアクセス方法

“RENANDI(レナンディ)”は、教育IT化の一環として平成18年度より導入され、現在は総合英語や理系基礎科目など150科目で使われています。アクセス方法は主に次の2通りです。

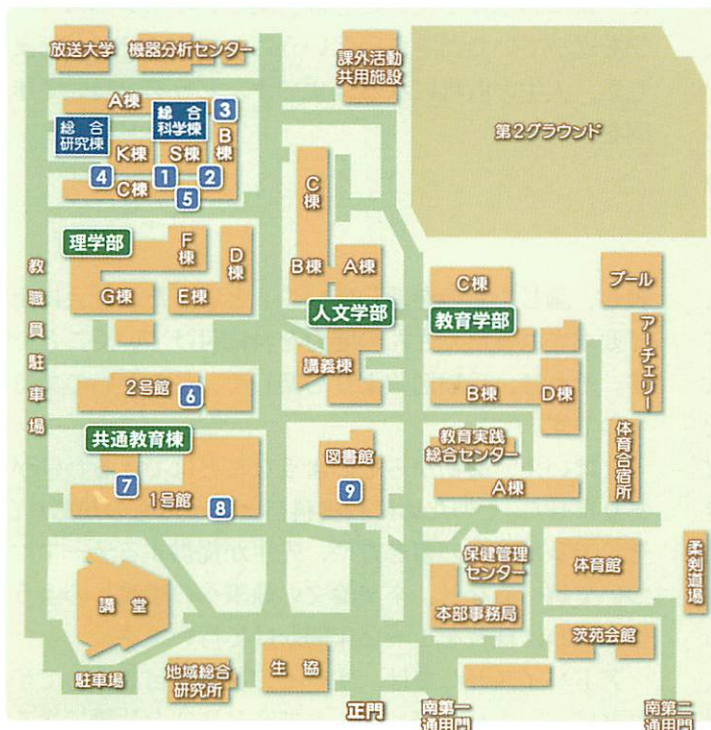
- ① <https://renandi.ipc.ibaraki.ac.jp/renandi/> と直接入力する方法
- ② 『茨城大学』と『大学教育センター』のホームページを経由する方法

ここでは②について説明します。『茨城大学』のホームページより、“在学生”をクリックします。リストアップされた上から2番目の項目“教養教育(大学教育センター)”をクリックすると、『大学教育センター』に移動します(左下図参照)。トップページの“あいさつ”の一番下にある“学習管理システム(RENANDI)へはこちらからどうぞ。”をクリックすると、『RENANDI』に移動します(右下図参照)。ここで、ログインIDとパスワードが必要ですが、これらは入学時に学生全員に配布されるユーザーID・パスワードと同じです。ログインすると、利用可能な科目のリストが現れます。



『RENANDI』へは、インターネットにつながる環境であれば、学内・学外を問わず、アクセス可能です。水戸キャンパスで利用可能なパソコンは以下の通りです。ぜひ活用してください。

パソコン室利用案内 (水戸キャンパス)



- 1 **総合科学棟 1F**
マルチメディア教室① 80台 月～金 08:50～18:00 授業のないとき
- 2 **総合科学棟 2F**
マルチメディア教室② 75台 月～金 08:50～18:00 授業のないとき
- 3 **理学部B棟 1F**
英語学習室 60台 月～金 08:30～18:00 授業のないとき
- 4 **総合研究棟 1F**
情報スペース 30台 月～金 08:50～18:00 授業のないとき
- 5 **理学部C棟 1F**
学生自習室 35台 月～木 08:30～17:30
※注 理学部C棟1F 学生自習室は、持込のノートパソコンによる無線LAN接続も可能
設定は<http://www.ipc.ibaraki.ac.jp/inside/> 参照
- 6 **共通教育棟 2号館1F 14番教室**
CALL教室62台 月～木 13:00～17:10 かつ授業のないとき ヘッドホン有 **総合英語優先**
- 7 **共通教育棟 3F**
300A室 35台 月～木 13:00～17:50 **総合英語優先**
- 8 **共通教育棟 1号館 1F**
学生情報室 32台 月～金 08:30～17:30
- 9 **図書館 2F**
図書館 30台 月～金 09:00～21:00 土日 09:30～17:30
ただし休業期間は月～金 09:00～17:30のみ

ローザブルムラ第38号特集：

「今春卒業した先輩から新入生のみなさんへ」

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんは今、これから始まる学生生活に対し期待と不安でいっぱいではないでしょうか。そこで本号では上記の特集を組みました。今春卒業されたばかりの多くの先輩が後輩となったみなさんへ寄せてくれた、貴重なアドバイスを参考に、有意義で充実した4年間にしましょう。

人文学部

永崎 緑さん（哲学専攻卒）

新入学生の皆さん、こんにちは！2009年に人文学部の哲学専攻を卒業しました、永崎と申します。

まずはご入学おめでとうございます。茨城大学は、良い環境で有意義な勉強ができる場所です。水戸に留まる方々も、日立や阿見に行くことになる方も、ぜひ水戸での1年間を楽しんでください。

さて、ここからは茨城大学人文学部の特徴について、私見ですが皆さんのお役に立ちそうなあれこれをお伝えしたいと思います。しばしお付き合いくださいませ。

まず、人文学部の人びとについてですが、学生職員問わず、なぜかしら優しく温かい方がとても多いようです。争いごとよりは仲良しになるほうを選びたい、そんな関係をお望みでしたらベストの学校でしょう。

先生方についても同じようなことが言えるでしょう。職業柄なののでしょうか、やはり個性的な方が多いので最初は近寄りがたく感じるでしょうが、ぜひお喋りの機会を設けてごらんください。歓迎と期待を受けて、大学生らしい誇らしさを感じることができます。

勉強のカリキュラムについては、モデル別に分かれた後に、でき得る限りの自主性が尊重されています。

山崎 有望さん（心理学専攻卒）

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。私は、大学生活の要である卒業研究および卒業論文について話させていただきたいと思います。よく皆さんは「大学に入ったら、自分で好きなこと、勉強したいことを見つけて自主的に学んでいくものだ、そして卒業論文を書くものだ」などと、周りの人たちから言われてきたと思いますが、人文学部で卒業研究を行い卒業論文を執筆するという事は、「自ら疑問に抱いたことに関して、調査をし、たくさんの文献を読みあさり、自ら調べたことで、何が言えて何が言えないのかを論じる、そしてそれを始めて読む人にもわかるような形で発

何を学び、何をを目指すかを選ぶのはあなた自身です。のんびりと道を探したい方には、担任の先生にある程度のテンプレートを作って貰うことも可能です。もちろん大学は学ぶ場所ですので、自ら学ぼうとする方にこそ素晴らしい道が開けるでしょう。

最後に、皆さんご心配でしょう就職活動についてお話ししましょう。「人文系の学科は就職に弱い」という俗説については、私見ですが賛成しかねます。理系学部の皆さんのように専門知識を求められる職業と、そうでない職業がありますよね？普通はその双方に需要があり、どちらをより欲しいということはありませんでしょう。活動は3年生の秋口から冬にかけて始めるのが一般的ですが、アルバイトやサークル活動、勉強を楽しんでおくと思わぬ収穫があったりもしますよ。

長々とお話をしてしまいましたが、新入生の皆さまに一番にお伝えしたいことは、楽しいキャンパスライフを送っていただきたいということです。それが何よりも、人生の収穫になるはずですよ。どうぞ、良い4年間を。

表し、論じたものを遺していく」といった、社会に出て要求されるたくさんの能力を身に付けていくことです。それは、受験勉強よりも楽しく、やりがいのあるものです。

とはいえ、最初からそのようなことはできるわけがありません。そのために教養科目といったものがあり、そこでレポートの書き方や、先生が提供するテーマについて調べるなど、卒業論文の執筆への橋渡しのような、いわば練習を1～2年間かけて行います。

アドバイスとしては、すべての履修科目を全力でやれとは言いませんが、楽しんで卒業研究を執筆できる

ようになるためにも、授業では、ある程度まじめな態度で取り組んだほうが良いかと思います。授業は、高校までと同様にただ聞いているだけでは、楽しくなりません。周りの空気ばかりを気にして硬くなっているのは、もったいないことです。どんどん質問していっ

てください。それから、学部を越えて(自分の研究テーマに関連のある)先生方とたくさん話をする機会を自分から作っていくと、なおさら良いかと思います。有意義な学生生活をお過ごしください。

教育学部

藤田亜沙美 さん (家庭選修卒)

教育学部では、たくさん人と関わることを通して、幅広い知識を身につけ専門性を高めるなど、有意義な経験ができるのではないのでしょうか。そこで、以下2点について紹介します。

まず、教育学部は授業に対し気合が必要です。特に1、2年次は講義が多く、試験やレポートもあり、日頃から準備しておかないと学期末に苦しむことになります。また、3、4年次に教育実習があります。実習では、講義だけでは学べない多くのことを体験でき、進路を決める上でも重要な経験ができます。私自身、実習を通し「先生になりたい」という気持ちが強くなりました。日々の生活に追われ、つらいと感じることもあるかもしれませんが、どの講義も実習も無駄なことではなく、何かを学び、乗り越えた時に達成感を味わうことができると思います。

次に、教育学部では行事を十分に楽しむことができます。教育学部は各学科の人数が少なく、つながりが

とても強いといえます。家庭選修では、スポーツ大会やゼミについて知る会等をはじめ、楽しいイベントがあります。また茨苑祭では、先輩方から受け継いだレシピをもとにクッキーを作るのが伝統となっています。仲間と共に一生懸命になれる経験がたくさんできよかったですと思っています。このように、学科ごとに独自の行事があるのも教育学部の特色です。

最後に、大学の4年間は本当にあつという間に過ぎてしまいます。何となくでも過ごせませんが、是非、楽しく充実したものにしてほしいです。私は4年間通して、何に対しても「自分から学ぶ、やってみる」という意識が大切だと何度も感じ、それが有意義な大学生活のためのポイントではないかと思いました。私の体験談が、皆さんの大学生活において少しでも参考になれば嬉しいです。今後の皆さんのご活躍を期待しています。

理学部

米山 晃平 さん (自然機能科学科卒)

「理学部の伝統」という題目で文章を書かせてもらっています。伝統という言葉キーワードに4年間を振り返ると、私が感じる伝統は、配属された研究室で毎年、新メンバー歓迎をかねた忘年会で「ボーリング」を必ずやる。といった程度のもので、理学部全員が体験するような、強烈な印象を持つ伝統はないのかもしれない。

しかし、新入生のみなさんは気づいているかもしれませんが、理学部のカリキュラムは少し独特で、以前までの「数理科学・地球環境科学・自然機能科学」科制の名残を残しています。今では数学科、物理学科……と分類されていますが、昔は1つの学科に2つの

学科が混在しているような状態が続いていました。その影響で授業内容が多岐にわたり、授業担当教授の研究室も学科の枠を越えた布陣になっています。

もしかすると、新入生は「やりたかったことと違う」と思う場面もあるかもしれませんが、それは以前1つだった学科の形態によるもので、学ぶ上では有益になる情報を先生方は提供してくださっているはずです。枠を越えた授業内容。これを悪しき伝統ととるか、残すべき伝統ととるかは新入生のみなさんがこれからの4年間で判断してみてください。長いようでアツという間の4年間だとは思いますが。力強く学んでください。

村上 昌弘 さん (地球生命環境科学科卒)

大学の講義と高校までの授業の違いとは。それは、自分の受ける講義は『自分で決めなければいけない』と言うことです。今までは与えられた時間割にそって授業を受けていたかもしれませんが、これからは自分の受ける講義は自分で選ぶことになります。

講義の選び方はどれでもいいと言うわけではなく、学科やコースごとにおおよそ決まっています。

私の在籍した理学部生物科学コースは、ゲノム生物学・細胞生物学・発生生物学などの基礎生命科学分野と系統分類学・生態学などの多様性生物学分野の2つからなっています。生物科学について幅広く学ぶことが出来るのが特徴です。1～3年までは主に講義を受けることになり、1年のうちは教養科目が主です。学年が上がるにつれより専門性の高い講義内容になっていきますが、ここでは講義内容も難しくなってくるた

め付いて行くのに必死でした。

4年になると研究室に配属され、卒業研究に取り組むことになります。私は森野浩教官の研究室に在籍し、動物分類学や多様性生物学について学びました。私の研究テーマは、魚類の食性についてですが、研究テーマは学生ごとに異なります。研究室は、指導教官をはじめ多くの学生と意見を交換する充実した所です。

自分のやりたい研究や、アルバイトやサークル活動など、限られた時間を有効に使い、充実した学生生活を送るためには自らの時間割をきちんと立てることが不可欠です。単位を落としてしまうと限られた大学生活の時間を無駄にしてしまうことになります。自分が決めたことは責任を持って、有意義に大学生活を楽しんでください。



川島 武士 さん (知能システム工学科卒)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境で期待に胸を膨らませているのでしょうか？分からないことばかりで不安な方もいらっしゃるでしょう。大学生活は貴重な経験ができる場ですので、リラックスして楽しんで下さい。

私は社会人4年目のとき、Bコースで仕事をしながら大学で学ぶことを決意しました。仕事との両立、勉強のブランクなどからの不安もありましたが、新しい経験ができることに期待を膨らませ、入学したことを今でも鮮明に覚えています。大学に通い始め、社会人ということもあり、時間の大切さを痛感し、勉学・仕事のメリハリをつけながら、常に時間を意識して計画性を持って取り組んできました。

知能システム工学科は、コンピュータとメカ技術の融合分野を担う技術者の育成を目的として幅広い教育がされており、システム系の仕事をしている私にとってメカ技術を勉強することは、とても視野が広がりました。学科が新設されて間もないということもあり、授業やカリキュラム・実験など先生方も手探りの部分もありましたが、学生の意見等も積極的に吸収され、学びやすい環境になっていると感じています。幅広い教育のもと、様々な履修ができ、幅広い知識を得ることができるため、技術への視野が広がることでしょう。

大学生活4年間はあっという間です。皆さんも時間を有効活用し、未来の自分を想像して、未来に向けての道筋を自分で切り開いていって下さい。

宮崎 朗 さん (電気電子工学科卒)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私が送るアドバイスがこれから4年間茨城大学の学生として生活していく上で多少なりとも参考になればと思います。私が所属している電気電子工学科は1、2年次は電気電子工学を学ぶ上で基礎となる学力を身につけ、3年次からより専門的な知識を身につけていくという教育課程をとっています。そのため、1、2年次に学ぶことは3年次以降では当然わかっているもの

として講義は進んでいきます。なので1、2年次のうちからしっかりと学んでおくことが3年次からの講義を理解するうえで大切になります。また、今の電気電子工学科では3年次に電気コースと電子コースの2コースに分かれ、それぞれが少人数で専門の知識を効率よく身につけることができるようになりました。これについては、自分が将来やりたいことは何なのかを早いうちから考え、どちらを選択するか直前に迷うこ

とのないようしておくことが以降の勉学に意味を見いだせることにつながるのではないかと思います。大学でいろいろなことを学んでいく上で大切なことをひとつあげるとすれば、私は自分から学ぶことだと思います。これを意識して日々勉強していれば、最後の砦

である卒業研究においても臆することなく挑んでいけるようになると思います。最後になりましたが新入生の皆さんの大学生活が楽しく、有意義なものになるよう願っています。

農 学 部

梅崎 修平 さん（資源生物科学科卒）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。憧れの大学生活は、長いようであつという間です。えらそうな事は言えないですが、大学4年間を過ごした先輩として、新入生の皆さんに少しばかりアドバイスしたいと思います。

1. 好きな事にチャレンジ！大学生活は授業もありますが、自分の時間がたくさんあります。この時間をどう活かすか、それは皆さん次第です。正直、僕はバレーボールにアカペラ、アルバイト、自転車で一人旅、時には友達と飲み明かし、そして好きな研究に打ち込みと、僕は充実した大学生活を送ってきました。皆さんもやりたい事にぜひ挑戦してみてください…とは言っても、好きな事ばかりでは単位を落す、留年することになります。大学は高校と違い自分で授業を選び、誰に強要されるでもなく自ら学ばなければなりません。そこで大事なものは「メリハリ」。これが時間をうまく

使うためのコツだと、4年間を通じて学びました。

2. 色んな人と交流しよう！南は沖縄から北は北海道まで、留学生も含めて多くの人が大学には集まります。その中で生まれる出会いはかけがえのないものです。時には人生観がガラリと変わる出会いもあります。そういった環境に飛び込むことも、大学での楽しみ方の一つです。

3. 感謝の気持ち！大学で出会った人達みんなに感謝の気持ちを忘れないで下さい。また、僕が大学生活をこうして送れたのは、汗水流して働いてくれた両親のおかげです。責任ある大学生活を送って卒業すること、それが支えてくれた人達への恩返しだと思います。

このアドバイスが役に立つかは分かりませんが、茨城大学での4年間が皆さんにとって素敵な時間となるよう応援しています。

近藤 真実 さん・関 真都佳 さん（生物生産科学科）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。辛かった大学受験も終わり、いよいよ新しい生活が始まります。始めは慣れないことも多く、期待ばかりでなく不安も大きいかと思いますが、先に茨城大学に入学した先輩として、ささやかながらアドバイスをしたいと思います。私たちは農学部にて在籍していたので、少し先の話になりますが、ここでは農学部について主に話していこうと思います。

農学部は2年生から阿見キャンパスに移ります。広大な圃場がキャンパスに隣接していることもあり、実習などで実際に農作業を体験できる機会も多く、農業を学ぶ場としては最適な場所であると言えます。圃場では、現代GPの一環として地域の方を招いての家庭菜園講座も開かれており、地域の方と一緒に農業に取り組むこともできます。このように、地域の方

と結びつきがあるのも、他の学部にはない農学部の特徴の1つです。学生ではない、幅広い年齢の方と接することで、普段の授業では得られないような知識、考え方を得ることができ、自分自身の知見を広めることにもなりますし、コミュニケーション能力も身につくことと思います。

このような取り組みに積極的に挑戦する一方で、授業も大切にしなければいけません。農学部は、2年生になってから本格的に専門科目を学び、実験なども入ってくるため忙しくなります。開講されている教養科目も少ないので、水戸で取れる単位はきちんと取っておくことをお勧めします。

最後になりますが、皆さんの大学生活が充実したものにようになりますよう、心から応援しています。

● 学生の声 ●

新入生のみなさんへ

工学部都市システム工学科 2年 諸岡大介

私は、推薦入試で茨城大学に入学しました。推薦入試には、口頭試問が行われていたため、微分積分や英語の勉強を中心的行って来ました。しかし、実際に大学の授業を受けてみると今まで行ってきた学習のほか、物理や様々な専門科目も入ってくるので、ついていくのが大変でした。1、2年生の時は、授業スケジュールが大変なので、授業で疑問に思うことがある時は、その疑問を解決する習慣が大切になると思いました。私の場合は、その日のうちに先生や友達に質問するなどして対処しました。先生に質問をするのはすこし勇気が必要かもしれませんが、わからないまましているとあとあと困るのは自分です。積極的に先生に質問することをオススメします。

学生生活には学業も重要ですが、サークル活動などを通して友達の輪を築くことも重要です。幸い茨城大学には、数えきれないくらいのサークルや部活動があります。私は、サッカー同好会に入りました。入部当初は期待や不安がありましたが、サークルのメンバーと活動を通していくうちに少しずつ友達ができるようになりました。必ず自分にあったサークルが見つかると思うので、大学生活を充実させるために積極的に参加していくべきだと思います。

茨城大学の長所は、図書館だと思います。学生が探し求める本があるほか、一人で行う学習室や友達と相談できる共同学習室があります。授業のある期間の平日は21:00まで利用できます。さらに土曜や日曜日にも17:30まで開館しています。静かな環境は、勉強に最適です。その他には、学生食堂が3つもあり栄養のバランスの取れたメニューがたくさんあることも魅力のひとつだと思います。

編集後記

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学で勉強するつもりなら、1年生の前期が勝負ですよ！まだ他のことであまり忙しくならない1年生のうちに、勉強する習慣をつけてしまいましょう。遊ぶときにはガンガン遊びつつ、しっかり宿題もこなす、カッコイイ大学生をめざしてください。(上田)

入学おめでとうございます。こんな不景気だからこそ、まじめに勉強する地方国立大学の学生は企業から見直されています。ぜひ自分の才能を一身に磨いてください。(竹内)

発行日 平成 21 年 4 月
 発行者 茨城大学 大学教育センター
 水戸市文京 2-1-1
 029 (228) 8416
 (学務部学務課 教養教育係)

サブプライムローン問題を発端にする景気後退により、ふたたび就職氷河期を迎えています。就職活動は入学直後から始まっています。日々の積み重ねが4年後の大きな収穫につながることを忘れずに。(吉田)